

---

「新約のきよめ」

第8章 神に領有されたたましい

## きよめには消極面とともに積極面もある

消極面には程度はなく、それだけで完結している。  
しかし積極面には不断の増進の段階がある。

救いにおいては、消極面は赦罪であり、積極面は新生とたましいに神のいのちが与えられること。

きよめにおいては、消極面は肉のないっさいのものを心から追放することであり、積極面は、神のいのちによってたましいをすべて満たすこと。

義認はわれわれがキリストに行くこと。

聖化はキリストがわれわれに来られること。

聖化はキリストによって全く領有されること。罪とサタンが追い出されてしまうほどにキリストのいのちに満たされること。

## 私たちは内におられるキリストを必要としている

聖い生活の秘訣は、キリストが私たちの心を全く領有し、そのキリストのいのちが輝き出すこと。

私たちは自分で心をキリストを迎えるほどにきよくすることはできない。  
キリストが来てくださり、ご自身の内住にふさわしく隅々まで潔めてくださる。

私たちは、私たちのためのキリストの死を必要としているほどに、私たちの内におられるキリストを必要としている。

勝利ある生涯を生きるためには、現に生ける救い主としてキリストご自身を私たちの内に住まわせなければならない。

きよめの生涯は、私たちの内にある神のいのちが輝き出すことにほかならない。  
キリストがご自分の生活を私たちの生活の中に再現なさることが、聖い生活の秘訣。

## 重要なのは賜物ではなく、その与え主

主ご自身を得ることによって、その所有物も得ることができる。

キリストは私たちとともにおられるだけでなく、内に宿られる。  
神が人々の内に宿るということを教える宗教は、キリスト教以外にない。

これは、旧約時代の聖徒たちが決して知らなかった奥義。

キリストが私たちの思いの中で思い、意志の中で意志し、行動の中で働き、私たちが管となって、内におられる主が人々にご自身を注ぎ出される。

問題なのは私たちができないことではない。  
私たちができなくても、キリストはおできになり、私たちの内において、必要が生じるたびに、いっさいの必要を満たしてくださる。

# すべてはキリスト

キリストと私たちが共に働いてわざを行うのではなく、救いは始めから終わりまで神のわざ。

違いをもたらすのは、キリストの内住。

私たちが何かを達成したからではない。

しかしある人はキリストを持ちながら、キリストによって領有されていない。それで主との交わりも途切れ、妨げの多いものになってしまう。

キリストのすべてをつかむために私たちがすべきことは、手をからにすること。

キリストに全く降伏し、自己意志を捨てる時、キリストは真空状態に空気が流れ込むように、私たちが全く領有してくださる。